

## 平成 27 年度「きらり講座」報告

それいけ糸貫川！ ～ゲンジボタルのひみつ～

H27年5月10日（日）

参加者：小学生親子9組19名

講師：岐阜農林高校環境科学科生徒9名

ゆうすいの会ボランティア7名



河川環境保全団体「ゆうすいの会」の協力で、糸貫川とゲンジボタルについて学習しました。

糸貫川は昔、鶴が飛来しホタルが飛び交う美しい川でした。高度経済成長期に環境汚染が進みましたが、流域住民や企業、自治体の努力により、カワセミやホタルなど多くの生き物が観察できるまでに環境が回復しています。

農林高校では河川環境を生物と土木技術の両面から学習していて、その成果発表として昨年からの環境学習の講座を企画・指導しています。

新緑の青空のもと八切公園に集まった参加者は、高校生とゲームをして緊張をほぐした後、糸貫川へ出発。

高校生が制作した生き物ガイドブックを手に川沿いを歩き、草花や昆虫などガイドブックに載っている生き物全種発見を目指して観察しながら、ゲンジボタルの生息地に向かいました。

生息地では高校生がホタルの一生を説明し、実際に川に入ってホタル幼虫の餌となるカワニナを採って見せてくれました。

また、糸貫川に生息する魚を種類ごとに観察ケースに入れて紹介すると、子どもたちは夢中になって見入っていました。



最後に高校生から「たくさんの生き物が暮らす川を汚さないよう日頃から気をつけましょう」と呼びかけがあり、参加記念品として手作りの観察ケースなどが手渡されました。

## 父の日に贈ろう！ポーセリンアート教室

(5月16日開催)

ポーセリンアートとは白い器(白磁)にカラフルな転写シールを貼って器をつくるクラフトです。今回は父の日に合わせて、感謝の気持ちを込めてマグカップを作成しました。



当日は28名の児童・保護者の参加があり、様々な種類の転写シールを思いおもいに白いマグカップに貼り付けていきました。細かい部分は先生にもお手伝いいただいて、とても素敵な作品ができあがりました。

「お父さん、喜んでくれるかな」と一生懸命、考えながら作る児童も！  
最後に「いつもありがとう」のメッセージを入れて完成です！

## それいけ天王川 ～川の生き物博士になろう～

H27. 6. 14(日)

参加者：小学生親子12組30名

講師：岐阜農林高校環境科学科3年生・

同校GFSC部員

協力：ゆうすいの会ボランティア



昨年度の秋編、冬編に続く今回は、初夏の動植物と川の生き物を探しました。

前日までの梅雨模様から一転、熱い日差しのなか歩き出すと、用水路に立派なアオダイショウを発見！雨上がりでエサを探しに出てきたようです。その直後にもまた別の一匹と遭遇。1m近くあってちょっと怖かったですが、生き物探しには幸先の良いスタートとなりました。

一行は天王川に到着。前回は壊れていたテラスがきれいに整備され、周りにたくさんの花が咲き誇る美しい川岸で、1家族に一人ずつ高校生がついて探検が始まりました。

農林生手作りのガイドブックを手に、普段見過ごしてしまうような小さな花や昆虫を探して歩きました。子どもたちが見落とすと、高校生や先生がヒントを出し、発見の喜びをともに味わっていました。

また、多くの外来植物に混じり絶滅危惧種の水草も生息していると分かり、天王川の豊かさを感じる事が出来ました。





子どもたちが探検している間、高校生の裏方チームは川の中へ。講座後半で観察するための魚を準備してくれていました。

ずらりと並んだ水槽を囲んで、高校生にそれぞれの魚の特徴や見分け方を説明してもらおうと、子どもも大人も興味津々で覗き込んでいました。小さな魚を傷つけないよう慎重に観察する子や、自宅で飼っている魚の生態を尋ねる保護者もいて、熱心かつ和やかな学習会となりました。

## それいけ糸貫川 part2 ～魚とり名人になろう～

H27. 7. 12(日)

参加者：小学生親子16組40名

講師：岐阜農林高校環境科学科3年生・

同校GFSC部員

協力：ゆうすいの会ボランティア



今回は、清流平和公園で魚とりを行いました。

本巣縦貫道沿いに3月に完成したばかりで、青々とした芝生、小水力発電を利用したせせらぎ、川に直接降りられる岸边を持つ、河川環境学習に適した美しい公園です。道路側には平和の鐘が吊り下げられ、長崎から譲り受けた被ばく二世の木も植樹されています。当日は晴天の猛暑日となりましたが、水辺にはさわやかな風が吹き、多くの家族連れが水遊びに来ていました。



高校生が網の使い方や観察の仕方を説明した後、家族ごとに担当生徒がつき、いざ川の中へ。深さは大人のひざ下くらいですが、子どもたちはあっという間に全身ずぶ濡れ。高校生とペアを組み、思い切りの良いガサガサで、網に追い込んだ生き物をケースに入れていきます。

が、なかなか思うようには捕れません。素早く逃げる魚影を追いかける子、水草に隠れている生き物を狙うペア、みんなと少し離れた静かな場所で成果

を上げる兄弟など、高校生とともに工夫しながら自由を楽しんでいました。

捕まえた生き物は、大きなたらいで先生たちと一緒に仕分け、展示水槽に入れていきます。水槽の前で高校生がそれぞれの魚の特徴を説明すると、常連の子どもたちは復習しながら、初参加の子どもたちも

熱心に話を聞いていました。



河岸工事から数か月しか経っていませんが、たくさんの生き物が確認できました。一般的な小魚のほか、清流を好むというカマツカやカニなどもわずかながら見付き、環境保全を通してホタルの生息地拡大に取り組んでいるゆうすいの会のみなさんも感心していました。

講座の最後に、ゆうすいの会の代表がその日見つけたゴミを参加者に見せながら「生き物が暮らせる川を守るため、ゴミを捨てないように気をつけよう」と呼びかけ、前期の環境学習会を締めくくりました。

### 市原信治先生の木工教室

①7/29(水) ②8/2(日) 小学1～5年生18名参加

- ①恐竜トリケラトプス&なかよし鉄棒
- ②恐竜ティラノサウルス&からくり登りチョウ



毎年人気の刃物を使わない木工教室です。

胴体やしっぽなどの形に切り出された木を、一つひとつ丁寧に紙やすりでみがき、向きや角度に注意しながら木工用ボンドで組み立てました。



初めての紙やすりに戸惑う子もいましたが、先生に教えていただき滑らかに磨き上げることができました。

ボンドが乾くまで待ち切れずに触って取れてしまう子も多かったのですが、根気強く何度も着け直して全員完成させることができました。

出来上がった恐竜を嬉しそうに眺める子、取れないように頭をそっと撫でてあげる子、足を動かしているいろいろなポーズを作り夢中で遊んでいる子。

鉄棒やチョウを作った子どもたちは、動かし方を工夫しながら友達と競い合っていました。



作業の過程や完成した作品を通して、既製品のおもちゃでは得られない達成感や手作りの魅力を、一人ひとりが感じ取っているようでした。

壊れても直せる手作りのおもちゃ、いつまでも大切に遊んでほしいと思います。ご参加ありがとうございました。

司書の仕事を体験！

8/1(土)

16組の親子が参加。

北方町立図書館にはいったい何冊の本や資料が保管されているか知っていますか？

みなさんが普段見ている書棚に並んでいるのは図書館にある本のほんの一部です。



そんな図書館の裏側まで巡り、保管されている新聞で生まれた日の出来事をたどる「書庫探検ツアー」や日本十進分類法を学び書架から本を探し出す「本探しラリー」、本にカバーフィルムを貼る体験などを通して図書館司書の仕事について親子で一緒に楽しく学びました。

それいけ天王川(秋・冬)

講師：岐阜農林高校環境科学科生徒・  
同校GFSC部員

H27. 10. 18(日)～秋の自然探索会～

参加者：小学生親子10組30名

お天気は快晴。半袖になる方もいらっしやるほどの陽気でした。



今回は、秋の草花や昆虫を観察しました。問題シートにいろいろな形や色を書いてあり、それと同じ形や色の葉、茎、実などを集めていきます。

参加した親子は講師役の高校生たちとともに答えとなる植物を求めて歩き回り、足元の小さな花から大人の背丈ほどの草まで一つひとつ丁寧に観察・採集していました。

かと思えば、草の中からバッタが飛び出した瞬間にハンターと化し、網を振り回し懸命に追いかける！

時間いっぱいまで観察し、いざ答え合わせをしてみると・・・みんな自由な感性で植物を探し出し、バラ

エティ豊かな名回答・珍解答に先生もびっくり。

身近な場所で秋の自然を満喫できた楽しい学習会となりました。



## H27. 12. 23(水・祝)～冬の野鳥観察会～

昨年は雪の中での観察会でしたが、今年は双眼鏡をのぞくにはちょうどよい曇り空（鳥を追いながら太陽を見てしまうと危険）。今年度最後の「それいけ」は、たくさんの高校1年生がデビューし、3年生が巣立っていくリレーポイントにもなりました。



圧巻だったのは集合場所にずらりと並んだ美しい鳥の剥製。そして、高1の女子生徒さんの解説です。剥製を使って大きさや形、夏冬の羽色の違いなどを上手に見せ、先生も感心しどおしの大変分かりやすい説明でした。

高3の魚博士を受け継ぐ生き物博士誕生の瞬間！

また、川面に目を凝らし双眼鏡を真剣に覗き込むお父さんたちの姿も印象的でした。子どもたちにとって良い刺激となったようで、いつもは賑やかな子どもたちが鳥を驚かさないう気をつけながら、静かに集中して観察していました。みなさんガイドブックと双眼鏡を手に、高校生や先生、鳥好きのお父さん方に教えてもらいながら、たくさんの種類を観察することができました。



## 古城山登山

2015年11月22日(日)

参加者・指導者 計22名



少し肌寒い曇り空のもと、マイクロバスで美濃市運動公園に出発。道の途中、赤や黄に色づいた美しい木々を見つけては感嘆の声が上がりました。



古城山へのルートは、遊歩道として整備されています。階段が続くため、みなさんすぐに汗だくになり、シャツ1枚になって歩く方も。少し辛い道のりでしたが、徐々にペースをつかみ、のんびりおしゃべりを楽しみながら杉の植林の中を無事登頂。

山頂では時おり薄日が差し、山並みの向こうに金華山を望むこともできました。お弁当と眺望を楽しみ、記念撮影をして下山開始。

下りも階段。膝や腰を痛めないよう慎重に進みます。下りは登りとは別世界の落葉樹の道。大きな木の落ち葉がまるで雪のように白く輝き、シャカシャカと音を立てて歩くと童心に帰ってウキウキとした気持ちになりました。

晩秋の古城山は、冬イチゴやヤブコウジ、ツバキが鮮やかに色を添え、紅葉だけでない山の秋を楽しませてくれました。

